

令和元年度 文部科学省「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」
令和2年度 長崎県教育委員会指定
平成30・令和元・2年度 南島原市教育委員会指定

研究報告

《研究主題》

共に学び合い、よりよい自分をめざす児童の育成
～「考え、議論する道徳」の授業づくりを通して～

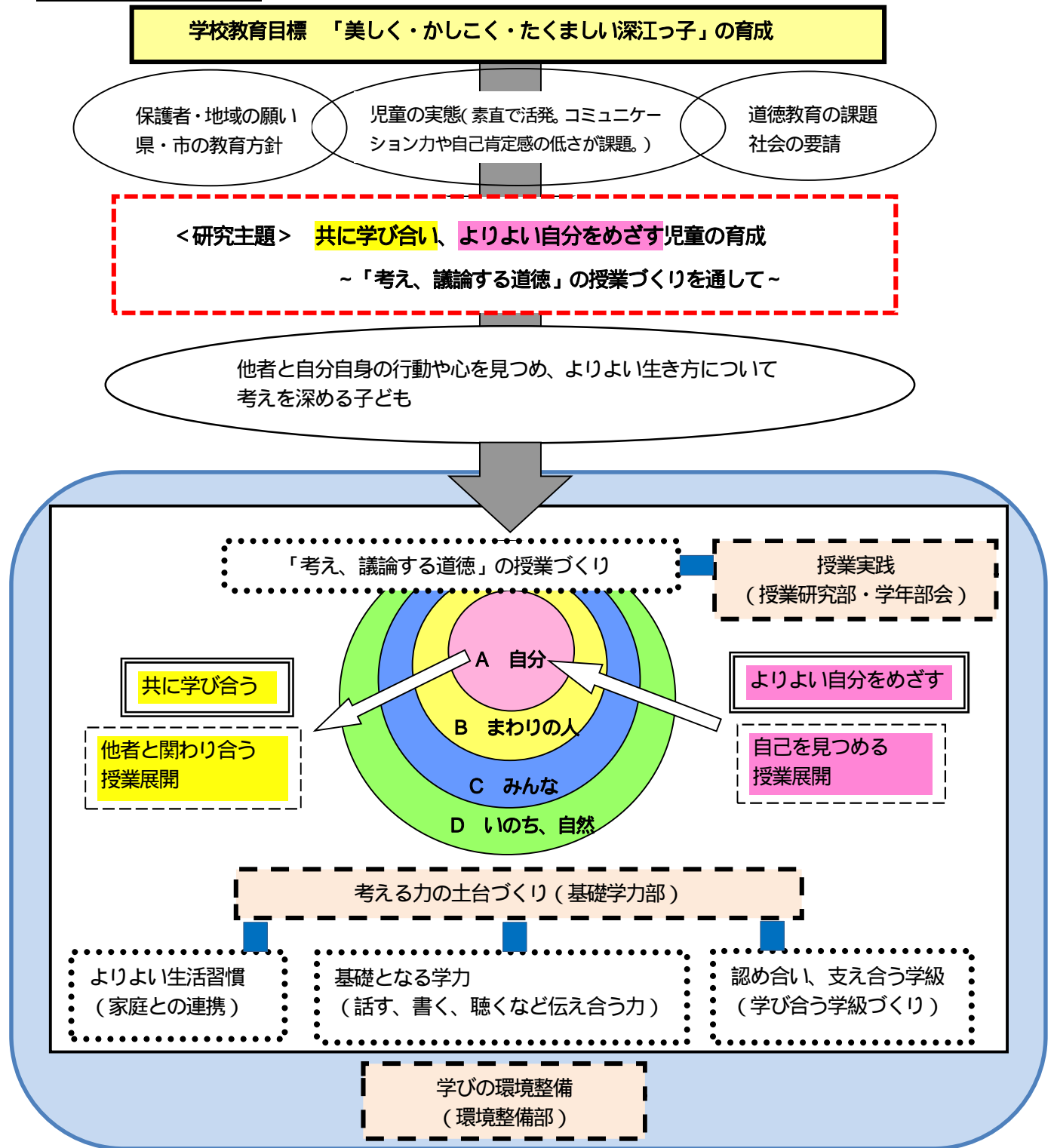


令和3年 2月

南島原市立深江小学校

研究の概要

1 研究構想図



< 授業実践 >

- ・学年の系統性、様々な授業形態
- ・道徳の評価についての研究
- ・「心のピラミッド」などの思考ツール、ワークシートの活用
- ・カリキュラムや別葉の見直し、活用
- ・ステップアップ研究授業

< 学びの環境整備 >

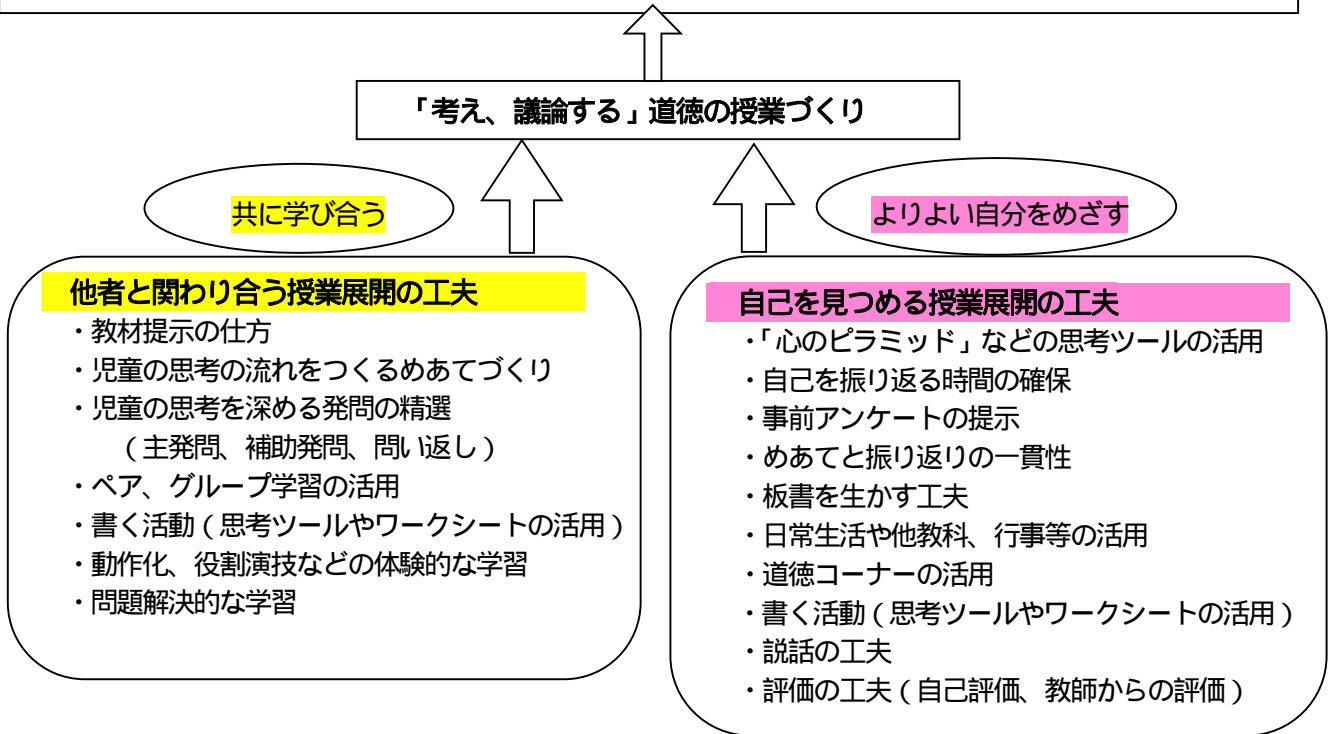
- ・学びの環境整備
(美化、掲示物等)
- ・道徳コーナーの設置
(学級、掲示物、図書室)
- ・研究授業の写真、動画撮影
- ・別葉の作成と掲示

< 考える力の土台づくり >

- ・「道徳意識調査」の実施と分析
- ・読書の推進
- ・学力テストの分析と考察
- ・「Q U アンケート」の実施と分析
- ・「家庭生活がんばり週間」実施、集計、分析

2 研究仮説

道徳科の学習において、**他者と関わり合い**、**自己を見つめる**授業展開を工夫することで、子どもは他者と自分自身の行動や心を見つめ、よりよい生き方について考えを深めることができるであろう。



3 学年部会テーマ

	部会テーマ	指導方法	めざす「学び合い」
低学年	体験的な学習や、対話的な学びを工夫し、自分の思いや考えを表現できるようにする。	問題解決的な学習 読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習 道徳的行為に関する体験的な学習	「伝え合い」 ・自分の考えを話す。 ・友達の考えを聞く。 ↓
中学年	自分の思いを表現したり、他者の考えに気付いたりすることにより、自己の考えを深めることができるようにする。		「話し合い」 ・友達の考えを聞いて感じたことを話す。 ↓
高学年	意見交換を通して、自分の意思を表現したり他者の考えを受容したりして、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。		「深め合い」 ・話し合ったことから、自分の考えを見つめ直す。

4 学年重点項目 全学年統一の重点項目は「D 生命の尊さ」

もう1つの重点項目を、児童の実態 Q U アンケートや道徳意識調査 担任の学級経営 を基に決める。各学年2つの重点項目の授業を毎学期行うよう、カリキュラムを作成している。

<令和2年度 各学年の重点項目>

1年	B 友情、信頼	3年	A 節度、節制	5年	A 善悪の判断、自律、自由と責任
2年	A 善悪の判断、自律、自由と責任	4年	C 規則の尊重	6年	A 希望と勇氣、努力と強い意志

研究の実際

1 授業実践（授業研究部・学年部会）

（1）道徳の学習に関する共通理解事項 全校で統一することで、継続的に道徳の学習ができるようにする。

道徳の授業の板書...はじめに「第 回道徳」と書く。



授業では、基本的に「めあて」を提示し、板書する。

- ・事前アンケートなどを活用し、課題意識を持たせる。
- ・問題解決的なめあてを基本とするが、内容によって考慮する。
- ・「めあて」の提示は導入部分を基本とするが、話の内容によっては教材文提示の後になることもある。
- ・「まとめ」は板書しない。キーワード程度にする。

「心のピラミッド」などの思考ツールを活用し、書く活動や話し合う活動の充実を図る。

心のピラミッドの活用場面（児童の心の動きを「見える化」するツールとして活用）

「気付く」過程における活用

本時の内容項目に関する発問に対して、自分の考えや経験を示す。

「考える」過程における活用

<主な活用法>教材の葛藤場面において、自らの考えを示す。

教材の登場人物のうち、誰の考えに近いかを示す。

教材の時系列の中で、どの場面かを示す。

同じ考え、異なる考えを明確にし、ペアやグループでの意見交換を行う。

「見つめる」「あたためる」過程における活用

自分の考えや経験を振り返ったり、今の思いを示したりする。

本時の学習を終えて、学習前との変化に気付く。（「気付く」過程と同じ発問）



（令和元年度の様子）

その他の思考ツール

- ・Yチャート（対象を多面的に見る）
- ・バタフライチャート（2つの対立する立場から考える）
- ・キャンディチャート（どのようなことが起こりそうか見通す） など

参考：黒上晴夫編・著 「思考ツールでつくる考える道徳」

話し合い活動の充実を図る。

- ・「議論する道徳」として、低学年で「伝え合い」、中学年で「話し合い」、高学年で「深め合い」ができる授業をめざす。ペア、グループ活動による交流では、学年の発達段階に応じたヒントカードなどを作成し、自分たちで話し合いができるよう支援する。

「見つめる」「あたためる」過程の時間の確保

- ・事前アンケートの活用などにより、「つかむ」過程の時間短縮を図る。めあての提示までのスムーズな流れを意識して授業を組み立てる。
- ・教材に関する発問を精選し、「考える」過程の時間短縮を図る。教材を読む前に登場人物の説明を加えたり、場面絵を事前に提示したり、動画を活用したりすることで、児童が教材の内容を理解しやすくなるように支援する。
- ・「見つめる」「あたためる」時間を確保し、書く活動と話し合う活動を充実させる。

授業で使った場面絵などの保管

- ・場面絵の他に、文カード、お面などの小道具、作成したワークシート、指導案、板書の写真、授業者の気付き（メモ）などがある場合は、一緒に保管しておく。また、板書の写真を保管し、次年度へのステップアップを図る。

カリキュラム及び別葉の作成と活用

- ・行事や他教科との関連を図りながら重点項目を毎学期指導できるように、カリキュラム及び別葉を作成する。

<活用の方法>

別葉を教室の教師用机後ろに掲示し、道徳の授業を実施したら、担任がマーカーで線を引く。
（確実に実施するためと、別葉を意識して見るため）

内容項目が書かれた付箋紙を、各教科の教師用教科書（指導書）に貼る。（どの教科においても、関連する内容項目を意識して指導するため）

(2) 道徳の評価に関する共通理解事項

評価の着眼点

- (ア) 主に具体的な「児童の学習状況」をとらえた評価
- (イ) 主に多面的・多角的な見方への発展をとらえた評価
- (ウ) 主に自分自身との関わりでの価値の深まりに関する評価
- (エ) 「道徳性に係る成長の様子」をとらえた全体的な評価

参考：永田繁雄編集「『道徳科』評価の考え方・進め方」

文科省から出された評価の視点(イ)(ウ)を中心に、学習指導要領に示されている見取りの内容である(ア)(エ)を加えた4つの視点から評価する。

児童の自己評価の項目

- 1 しっかり考えたか。
- 2 新しく気付いたことがあったか。
- 3 これから大切にしたいことがわかったか。

評価方法の工夫

チェックリストや大きな付箋に、発言などを記録する。
 板書を写真に撮り、ネームプレートから児童の発言や思考の記録とする。
 道徳ノート(ワークシート)の記述から評価する。
 その時間に特に見る児童を決め、表情やうなずきなどを見取る。
 ○表現を苦手とする児童と、授業後個人的に対話をする。 など

(3) ステップアップ授業

授業研究で出された反省や課題を表にまとめ、次に授業を行う学級の授業改善に生かす取組を行っている。また、これまでの研究の積み重ねを生かし、昨年度、一昨年度の授業からの改善を図り、ステップアップを図ることもできる。

(例) 1年「はしのうえのおおかみ」 (内容項目B 親切、思いやり) 課題 変更点 成果

ステップ1 → ステップ2 → ステップ3

見 つ め る	アンケートをもとに、自分が親切にしたときの気持ちを考える。	継続	→	継続	→	継続
	アンケート結果を提示し、自分自身の経験を振り返らせる過程が不十分で、何を書いたらいいのか理解できない児童がいた。	導入で提示したアンケート結果を再度提示することで、振り返りをしやすくする。	→	自分が親切にしたときの気持ちを考えるときに、どのように書けばいいのか戸惑う児童がいた。書く活動については、今後経験を積み重ねることが必要である。	→	→
	授業改善			成果		今後の課題

2 学びの環境整備 (環境整備部)

(1) 展示・掲示物による環境づくり

道徳コーナー1～学級に「道徳の学び」を掲示～

各学級に、道徳の授業の足跡として「道徳の学び」コーナーを設置し、いつでも以前の学習を振り返ることができるようにしている。



道徳コーナー2～言葉や詩などの掲示～

児童が他者の考え方・生き方に触れることで、自己を見つめるきっかけとなるように、名文・名言の掲示を行った。

道徳コーナー3～図書室前の「今月の本」の設置～

行事や学校生活、全体計画別葉などを考えて決定し、選書は深江図書館と連携を図っている。

(2) 学習のきまりの見直し・掲示

校内で共通理解を図り、学習のきまりを掲示し、日々の指導にあたる。

(3) 児童会活動との連携

本校の今年度のなかよし宣言「みんなが 主役 笑顔あふれる 深江っ子」を目指すための手だてとして、ハートの形の「ぼかぼかの木」を作成した。

ハートの形の用紙に友達の良いところを見つけて貼る活動を行うことで、互いのよさを認め、高め合う場としている。



3 考える力の土台づくり（基礎学力部）

(1) 家庭生活がんばり週間

学習時間、お手伝い、早寝、早起き、朝ご飯など、児童が家庭生活を見直し、よりよくしようとするきっかけにする。
年4回実施し、結果は児童と保護者に知らせる。

(2) 道徳意識調査の実施

年度当初と年度末に行う。道徳の研究を始めてから4年間、同じ内容で実施することで、児童の変容を見て、指導に生かしている。また、教師自身の評価にもつながる。

(3) Q Uアンケートの実施

学級集団の状態や児童一人一人の意欲・満足感を測定するアンケートを実施することで、学級の実態や個人の状況を把握し、よりよい学級づくりに生かす。
実態を把握し、道徳科の教育課程編成に生かす。

(4) 読書活動の充実

○「おすすめ読書カード」を全校に配布する。
国語科を中心とした他教科等との関連を図り、多様な読書活動を推進する。

成果と課題

道徳意識調査より、肯定的意見の割合

質問項目	道徳の時間		自尊感情		夢・志	人間関係		規範意識	生命尊重	社会貢献・郷土愛	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
平成29年度(%)	84.5	79.0	93.4	80.7	91.7	97.2	97.8	91.7	97.8	82.9	93.4
令和2年度(%)	85.0	91.8	91.3	82.6	91.3	95.7	95.7	89.9	96.6	91.3	93.3

<考察> 成果 課題

項目2...「考えを思いのままに話してよい」という支持的風土が育っていると感じる。また、表現することに自信をもってきたと考える。

項目10...生活科や総合的な学習の時間で地域のことを学び、地域の人々と触れ合う学習を行う中で、地域を身近に感じる事ができ、自分ができることを考えることができています。

項目4...研究開始当初からの課題である。アンケートをとる時期によっては、より向上が見られることもわかった。児童が認められていると感じられる取組や言葉掛けを継続することで、今後も自尊感情を高めたい。

1 研究の成果

系統性、連続性をもって道徳の学びを積み重ねることができた。高学年になるほど「道徳の学習が好きだ」と答える児童が増えている。

児童の表現力が向上した。

児童の支持的風土の醸成が、「いじめのない学校づくり」に生かされている。

ステップアップ授業を通して、教師の意識改革や授業改善を図ることができた。

2 今後の課題

児童が自身の考えをより深められるよう、話し合い活動のさらなる充実を図る。

道徳の授業での学びと日常生活とのつながりをもたせるための手だてを、さらに工夫する。

家庭、地域とのさらなる連携を図る。

No	質問項目
1	道徳の勉強は、好きだ。
2	道徳のじょうぶでは、自分の考えを伝えたり、ほかの人の考えを聞いたりしながら、自分のことについてよく考えている。
3	ものごとをさいごまでがんばってやって、うれしかったことがある。
4	自分には、よいところがあると思う。
5	がんばりたいことや目標をもっている。
6	人の気もちがわかる人間になりたいと思う。
7	いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。
8	学校のきまりを守っている。
9	毎日一生懸命に生きようと思う。
10	自分のすんでいる町や地いきのために何かしたいと思う。
11	自分のすんでいる町が好きだ。